
総合的な探究の時間

新学習指導要領の中で、先行して始まった総合的な探究の時間は、各校において試行錯誤をしながら進めているところである。その中で県立高校改革実施計画における教育課程研究開発校が、『総合的な探究の時間』に係る研究の指定校として10校指定された。全般的な研究として、市ケ尾、横浜清陵、藤沢西、秦野総合、大和の5校が、SDGsをテーマとした研究として、川崎、舞岡、横須賀南、山北、有馬の5校が研究を行っている。おそらく、どの学校においても組織的な取組として、「総合的な探究の時間」をカリキュラム・マネジメントの中核として進めていくために、とりわけ担当教諭や担当グループ等は苦勞をされたことと思われる。

「総合的な探究の時間」については、教育課程研究会の研究推進委員を選出せず、県立高校指定校事業での取組で対応することとなっている。指定校事業開始初年度（平成31年度）から「研究報告」を作成し、教育課程研究会の研究報告に掲載している。

今年度は、この3年間の研究成果を県立高校指定校事業研究成果発表会全体会において、すべての指定校が発表し、研究成果を発信した。各指定校が、研究のねらいである「探究のプロセスによる学習過程を実現するための適切な指導の在り方、探究的な学習の指導力向上」について、それぞれのテーマを設定し、研究に真摯に取り組んだ。特にその中でも、探究のプロセス（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現）による学習過程の在り方について、明確な課題意識をもって取り組んだ2校（有馬、大和）に絞り、取組内容について掲載する。

以下に2校の単元指導計画の一部と、各校の工夫についてまとめたので掲載する。

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

「総合的な探究の時間」の組織的な取組

(2) 研究のねらい

平成31年度（令和元年度）から実施となる「総合的な探究の時間」において求められる探究のプロセスによる学習過程を実現するための適切な指導の在り方、探究的な学習の指導力向上について研究する。

2 実践事例

(1) 有馬高等学校（SDGsをテーマとした展開に係る研究）

① 教育課程表上の名称：『総合的な探究の時間』

② 総合的な探究の時間の目標（学校としての目標）：探究の見方・考え方を働かせ、SDGsに関わる総合的な学びをとおして、持続可能な社会の実現に寄与する自己の在り方や生き方を考えながら、論理的で多角的な課題の発見及び解決する能力を育成する。

③ 第1学年の探究課題：「グローバルな視点で課題を見つけ、ローカルの規模でアクションを起こすために何ができるか」

今年度は「グローバルな視点で課題を見つけ、ローカルの規模でアクションを起こすために何ができるか」を探究する。SDGsの基礎知識、探究の基礎基本の習得から始まり外部講師による講演会、校内フィールドワークなどを通じ探究活動に必要なことを身に付ける。また、本校の学校教育目標である「自ら考え、教え合い、学び合い、表現し行動する力」の達成のためにグループワークを中心に課題の解決のアイデアを話し合うなど行う。

本番の発表では質疑応答をすることで生徒が新たな課題を発見することを目指す。

④ 評価の観点の趣旨 a：知識・技能 b：思考・判断・表現 c：主体的に学習に取り組む態度

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・SDGsの17のゴールについて理解している。探究活動・グループ活動に必要な知識・技能を身に付けている。	・地球規模で起きている問題を見つけ、その解決に向けて自ら課題を見つけて、仮説を検証する過程を考えられる。相手に伝わりやすい発表をすることができる。	・SDGsと探究活動の理解に主体的・協働的に取り組んでいる。

⑤ 単元(内容のまとめ)の指導計画

時	指導事項	評価の観点			主な学習活動	評価規準
		a	b	c		
1～2	SDGsについて説明	○	○		探究活動を行うにあたり、そのテーマとなるSDGsとは何か、さらに企業の取組との関わりを学び理解を深める。	a：SDGsの17のゴールについて理解している。探究活動・グループ活動に必要な知識・技能を身に付けている。 b：地球規模で起きている問題を見つけ、その解決に向けて自ら課題を見つけて、仮説を検証する過程を考えられる。相手に伝わりやすい発表をすることができる。
3～6	探究活動の手法を学ぶ	○	○		探究活動を行うにあたり、 ①「探究活動とは」 ②「課題の設定方法」 ③「情報の収集方法」 ④「情報の整理方法」を学び、活動の見通しを立てる。	a：SDGsの17のゴールについて理解している。探究活動・グループ活動に必要な知識・技能を身に付けている。 b：地球規模で起きている問題を見つけ、その解決に向けて自ら課題を見つけて、仮説を検証する過程を考えられる。相手に伝わりやすい発表をすることができる。
7	講演会① (UNIQLO)		○	○	実際の企業の取組が身近にあることを知り、自分には何ができるのかを考える。	b：地球規模で起きている問題を見つけ、その解決に向けて自ら課題を見つけて、仮説を検証する過程を考えられる。相手に伝わりやすい発表をすることができる。 c：SDGsと探究活動の理解に主体的・協働的に取り組んでいる。
8～11	配信課題	○	○		Google Classroomで課題を配信する。 ①「SDGs解説」 ②「企業が行うSDGs」 ③「グループワークについてI」 ④「グループワークについてII」 書く課題について、Googleフォームで回答する。	a：SDGsの17のゴールについて理解している。探究活動・グループ活動に必要な知識・技能を身に付けている。 b：地球規模で起きている問題を見つけ、その解決に向けて自ら課題を見つけて、仮説を検証する過程を考えられる。相手に伝わりやすい発表をすることができる。

12	発表に向けたスライドの作成方法	○		○	最終発表に向けてGoogleスライドの作成方法を学ぶ。	a : S D G s の17のゴールについて理解している。探究活動・グループ活動に必要な知識・技能を身に付けている。 c : S D G s と探究活動の理解に主体的・協働的に取り組んでいる。	
13	模擬発表			○	教員によるGoogleスライドを使用した発表を見て、最終発表のイメージをつかむ。	c : S D G s と探究活動の理解に主体的・協働的に取り組んでいる。	
14～ 15	探究活動Ⅰ (クリーンエネルギー)			○	○	クリーンエネルギーを作るための資源を校内から探し、エネルギーへの変換方法を考える。	b : 地球規模で起きている問題を見つけ、その解決に向けて自ら課題を見つけて、仮説を検証する過程を考えられる。相手に伝わりやすい発表をすることができる。 c : S D G s と探究活動の理解に主体的・協働的に取り組んでいる。
16	講演会② (フリー・ザ・チルドレン)			○	○	講演、ワークショップをとおして、よりよい社会を作るための各国の活動を知り、自身の考えを深める。	b : 地球規模で起きている問題を見つけ、その解決に向けて自ら課題を見つけて、仮説を検証する過程を考えられる。相手に伝わりやすい発表をすることができる。 c : S D G s と探究活動の理解に主体的・協働的に取り組んでいる。
17～ 19	探究活動Ⅱ (ミニ発表)			○	○	最終発表の練習として、簡単なグループワーク、発表会を行う。	b : 地球規模で起きている問題を見つけ、その解決に向けて自ら課題を見つけて、仮説を検証する過程を考えられる。相手に伝わりやすい発表をすることができる。 c : S D G s と探究活動の理解に主体的・協働的に取り組んでいる。
20～ 23	探究活動Ⅲ (最終発表)	○	○	○	S D G s 17のゴールの中から興味があるものについて取り上げ、グループで課題解決に向けた取組を考え発表をする。	a : S D G s の17のゴールについて理解している。探究活動・グループ活動に必要な知識・技能を身に付けている。 b : 地球規模で起きている問題を見つけ、その解決に向けて自ら課題を見つけて、仮説を検証する過程を考えられる。相手に伝わりやすい発表をすることができる。 c : S D G s と探究活動の理解に主体的・協働的に取り組んでいる。	

⑥ 本時の展開（第20～23校時）

ア 本時の目標

各グループが設定した研究テーマについて、調査結果を分析し、自分たちで考えたことを明確にして整理したものを、他者に効果的にプレゼンテーションすることができる。

イ 本時の評価基準

スライドの資料と発表内容で評価を行う。

	スライド資料	発表	
		発表時間	発表内容
1点	1～3ページ	2分未満	<ul style="list-style-type: none"> ・話さない ・発表テーマと明らかに違う内容を話した
3点		2分以上3分未満	
5点	8ページ以上	3分以上	<ul style="list-style-type: none"> ・発表テーマに沿った話をした

合計点 10点以上=A評価（※満点=15点になります。）

5点以上=B評価

4点以下=C評価

ウ 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項
1 本時の目標及び学習活動の確認 (1) 本時の目標の確認 (2) 学習活動の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・発表をする際の注意事項、発表を聞く際の注意事項と評価について生徒に伝える。
2 発表 (1) グループ1～8(9)の順に発表 (2) 評価と振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞く生徒に、評価メモにメモを取りながら発表を聞くよう指導 ・生徒はグループフォームにて評価メモを基に各グループの評価を行う。
3 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の活動で得たことを次年度の探究活動につなげられるよう伝える。

(2) 大和高等学校(全般的な研究)

- ① 教育課程表上の名称：『総合的な探究の時間』
- ② 総合的な探究の時間の目標(学校としての目標)：自己の興味・関心を掘り下げ、自身の疑問を探究する過程で、他者と協働しながら社会とのつながりに目を向け、よりよい未来を切り拓くための読解力と行動力を育む。
- ③ 第1学年の探究課題：現代的な諸課題に対する横断的・総合的な課題～自己の興味・関心を深める～
- ④ 評価の観点の趣旨 a：知識・技能 b：思考・判断・表現 c：主体的に学習に取り組む態度

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自己に関わる事柄の中から探究課題を見だし、教科横断的・総合的に考える中で、探究学習の過程に沿って筋道を立てて探究課題を掘り下げるとともに、高度な分析を行うことで、探究課題に関わる概念を形成することができる。	・自己に関わる事柄の中から探究課題を発見し、探究課題に関わる情報の取捨選択をする中で、仮説の立案・検証を行い、検証結果を論理的に考察して表現することができる。	・自己に関わる事柄の中から見いだした探究課題を、自己の在り方生き方と結びつけて主体的に探究するとともに、多種多様な考え方に触れ、新たな価値を創造するために、それらを積極的に生かそうとすることができる。

⑤ 単元(内容のまとめ)の指導計画

学期	時間数	指導事項 (探究の学習過程)	主な学習活動	評価規準	単元
前期	5	①ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・新2年生の発表を聞いて、探究のイメージと理解を深める。 ・簡単な課題から情報を整理するためのシンキングツールを理解する。 ・県立高校生学習活動コンソーシアムを活用した授業を行い、探究とは何かを追求する。 	a 探究学習の過程に沿って学習の筋道を立て、探究課題を掘り下げることができる。	ガイダンス
	7	①課題設定	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心のある事柄から疑問を発見する。 ・社会とのつながりを意識し、自己の興味関心がある対象を把握する。 ・身近な疑問から問いを見出し、課題を設定させる。 	c 探究課題を自己の在り方生き方と結びつけて主体的に探究しようとしている。	課題設定
	7	①②先行研究・仮説	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な疑問から仮説を立ててみる。 ・仮説に対する答えを多角的な視点から考える。 ・探究課題に関する先行研究を調べる。 ・仮説の立て方を理解する。 ・先行研究をもとに仮説を立てる。 ・仮説検証のための計画を立てる。 ・中間発表用のポスターを作成する。 	b 疑問に関わる先行研究を踏まえて仮説を立てることができる。 c 探究課題を自己の在り方生き方と結びつけて主体的に探究しようとしている。	先行研究・仮説

後期	4	②③情報収集【中間発表】	<ul style="list-style-type: none"> ・中間発表を行う。 ・観察、実験、調査(フィールドワーク)、文献やアンケート調査などのデータ収集方法を学習する。 ・計画に基づき、データ収集を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> a 探究学習の過程に沿って学習の筋道を立て、探究課題を掘り下げることができる。 b 探究課題の検証を行うことができる。 	情報収集
	7	②③ポスター作製発表準備	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験、調査(フィールドワーク)、文献やアンケート調査などを利用して収集したデータを整理し、分析し、仮説を検証し、考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> a 探究学習の過程に沿って学習の筋道を立て、探究課題を掘り下げることができる。 b 探究課題の検証を行うことができる。 	ポスター作製発表準備
	5	④クラス発表学年発表【最終発表】	<ul style="list-style-type: none"> ・研究をまとめ、ポスターを完成させる。 ・クラス内で発表し、相互評価をする。 ・相互評価を基に、まとめ直し、修正する。 ・クラス代表を決め、学年発表の準備をする。 ・学年発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> a 探究学習の過程に沿って学習の筋道を立て、探究課題を掘り下げることができる。 a 探究課題に関わる概念を形成することができる。 b 分析結果を論理的に考察して表現することができる。 c 自己の在り方生き方と結び付けて主体的に探究するとともに、多種多様な考え方に触れ、新たな価値を創造するために、それらを積極的に生かそうとしている。 	クラス発表学年発表

※ 探究の学習の過程(①課題設定, ②情報収集, ③整理・分析, ④まとめ・表現)

⑥ 単元計画

単元名	①ガイダンス		
単元の目標	探究学習の過程を体験し、一連の流れを理解する。		
単元の評価規準	評価の観点		単元の評価規準
	a	知識・技能	・探究学習の過程に沿って学習の筋道を立て、探究課題を掘り下げることができる。
小単元名(時間数)	学習活動		評価規準及び評価方法
(1 時間)	・新2年生の発表を聞いて、探究のイメージと理解を深める。		a ○ワークシート
(2 時間)	・簡単な課題から情報を整理するためのシンキングツールを利用してみる。		
(2 時間)	・コンソーシアム活用授業を行い、探究とは何かを追求する。		

単元名	①課題設定		
単元の目標	身近な事柄から探究の課題となる疑問を発見する。		
単元の評価規準	評価の観点		単元の評価規準
	c	主体的に学習に取り組む態度	・探究課題を自己の在り方生き方と結びつけて主体的に探究しようとしている。
小単元名(時間数)	学習活動		評価規準及び評価方法
(4 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心のある事柄から疑問を発見する。 ・社会とのつながりを意識し、自己の興味関心がある対象を把握する。 		c ○ワークシート
(3 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な疑問から問いを見出し、課題を設定させる。 ・この1年間で探求する課題を立てる。 		

単元名	①②先行研究・仮説		
単元の目標	疑問に関わる先行研究を踏まえて仮説を立てる		
単元の評価規準	評価の観点		単元の評価規準
	b	思考・判断・表現	・疑問に関わる先行研究を踏まえて仮説を立てることができる。
	c	主体的に学習に取り組む態度	・探究課題を自己の在り方生き方と結びつけて主体的に探究しようとしている。
小単元名 (時間数)	学習活動		評価規準及び評価方法
(1 時間)	<ul style="list-style-type: none"> 身近な疑問から仮説を立ててみる。 仮説に対する答えを多角的な視点から考える。 		b c <input type="checkbox"/> ワークシート <input type="checkbox"/> 取組状況
(2 時間)	<ul style="list-style-type: none"> 疑問点に関する先行研究を調べる。 仮説の立て方を理解する。 先行研究をもとに仮説を立てる。 		
(4 時間)	<ul style="list-style-type: none"> 仮説検証のための計画を立てる。 中間発表用のポスター作成をする。 		

単元名	②③情報収集		
単元の目標	中間発表での反省をもとに見直し、仮説の検証データを収集する。		
単元の評価規準	評価の観点		単元の評価規準
	a	知識・技能	・探究学習の過程に沿って学習の筋道を立て、探究課題を掘り下げることができる。
	b	思考・判断・表現	・探究課題の検証を行うことができる。
小単元名 (時間数)	学習活動		評価規準及び評価方法
(2 時間)	<ul style="list-style-type: none"> 中間発表を行う。 		a b <input type="checkbox"/> 中間発表振り返り <input type="checkbox"/> ワークシート
(2 時間)	<ul style="list-style-type: none"> 中間発表での反省をもとに研究計画を見直す。 観察、実験、調査(フィールドワーク)、文献やアンケート調査などのデータ収集方法を学習する。 計画に基づき、データ収集を行う。 		

単元名	②③ポスター作成・発表準備		
単元の目標	検証データをわかりやすく整理し、分析する。		
単元の評価規準	評価の観点		単元の評価規準
	a	知識・技能	・探究学習の過程に沿って学習の筋道を立て、探究課題を掘り下げることができる。
	b	思考・判断・表現	・探究課題の検証を行うことができる。
小単元名 (時間数)	学習活動		評価規準及び評価方法
(7 時間)	<ul style="list-style-type: none"> 観察、実験、調査(フィールドワーク)、文献やアンケート調査などを利用して収集したデータを整理し、分析し、仮説を検証し、考察する。 		a b <input type="checkbox"/> ワークシート <input type="checkbox"/> 取組状況

単元名	④クラス発表・学年発表		
単元の目標	分析したデータから考察を導き出し、探究学習の成果を発表する。		
単元の評価規準	評価の観点		単元の評価規準
	a	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 探究学習の過程に沿って学習の筋道を立て、探究課題を掘り下げることができる。 探究課題に関わる概念を形成することができる。
	b	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 分析結果を論理的に考察して表現することができる。
	c	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 自己の在り方生き方と結び付けて主体的に探究するとともに、多種多様な考え方に触れ、新たな価値を創造するために、それらを積極的に生かそうとしている。
小単元名 (時間数)	学習活動		評価規準及び評価方法
(2 時間)	<ul style="list-style-type: none"> 研究をまとめ、ポスターを完成させる。 クラス内で発表し、相互評価をする。 相互評価を基に、まとめ直し、修正する。 クラス代表を決め、学年発表の準備をする。 		a b c ○ワークシート ○学年発表評価表 ○最終発表振り返り
(3 時間)	<ul style="list-style-type: none"> 学年発表を行う。 振り返りを行い、一年間の学習の成果を自己評価する。 		

3 指導のポイント

(1) 目指す生徒像を明確にする。

学校全体で共有する。また、目指す生徒像のために、自校のカリキュラム・マネジメントがどのように組み立てられているかを理解する。舞岡高等学校では、総合的な探究の時間を中核とした教科の指導を含めたカリキュラム・マネジメントのイメージ図を校長が作成し、教員に配布し共有していた。ここから、何が生徒に必要なか、を考えながら計画を立てる。

(2) 発表の機会を増やす。

発表を年に1回というサイクルにすると、発表のスキルが伸びない。原稿を読みながらの発表になったり、アイコンタクトができなかったり、声が小さかったりすることへの指導と実践が繰り返されることがない。ゆえに、総合的な探究の時間だけでなく教科においても授業改善を推進しながら、内容も含めて、発表の機会と共に教科へ落とし込んでいく。

(3) 会議の時間を確保する。

曜日と時間を決めて固定する。

(4) 外部と協働する。

外部と共に、まずは、目指す生徒像をしっかりと共有し、お互いに何をしたいかを明確にした上で、生徒に適切なものを一緒に作り上げていくことが大切である。

(5) 学年(学校)で指導を統一する。

教員への指示を明確にし、指示書のようなものを作成する。発表時間や発表が早く終わった際の対応や、開始前の生徒への指示等は詳細に決定した上で、指示書を作成し、どの教員が担当しても同じように対応できるようにする。

(6) 質問をさせる、引き出す。

まずは、生徒からの意見を引き出せるように、教員は優れたファシリテーターとして教室をコントロールする。発表毎に必ず質問をすることを、生徒に事前に伝えておくことも大切である。

4 成果と課題

(1) 成果

- 探究のプロセスを理解すること、身に付けることが一定程度できた。
- 県立高校生学習活動コンソーシアムを活用し、外部機関との連携を図ることができた。
→連携を通じて、企業や大学側の視点を知るとともに、一部の生徒は発表の講評などを通じて自身の探究学習の振り返りを充実させることができた。
- 身近なことに興味・関心を持つことの重要性を認識させることができた。
- 自分で考える力や、最初から最後まで自分でやることを経験することができた。
- Google スライドの作成やポスターの作成（紙芝居作成）を通じて、情報収集した内容をまとめる力を身に付けることができた。
- 情報収集において、インターネットの情報だけでなく、文献調査やアンケート、インタビュー調査などさまざまな媒体を用いることで、情報収集能力を高めることができた。
- テキスト「探究ナビ」の付属品である「探究PL（パターンランゲージ）カード」を使用し、探究活動で身に付いた内容、課題点等を明らかにすることができた。

(2) 課題

- 探究活動の意義を見出すことができない生徒に対し、探究活動への意欲の向上や理解させるための方策が必要である。
- 課題設定について、自由度を高めた設定にしたが、それが逆に指導者側の負担となってしまった面があり、課題設定について検討する必要がある。
- 外部連携を通じて探究活動の充実を図ったが、コロナ禍などの影響もあって連携の回数は少なく、次年度以降の連携強化について課題である。
- 教員側の指導に温度差があった。
- 総合的な探究の時間だけでなく、さまざまな授業に探究的な視点での授業実践を積極的に取り入れていく必要がある。
- 探究の各プロセスの要素（特に課題設定）を理解できている生徒が少ない。
- 3年間の取組を踏まえ、探究のプロセス（課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現）を理解することは引き続き継続して取り組み、次年度の1年生に対してはテキストを変更し、探究の各プロセスの要素を重点化させる。
- 今後は、「それぞれの学校としての探究活動」を確立し、全ての教員が対応可能な体制を更に構築する。